

これからの衣生活教育は技術・技能を含めた多面的内容をもつ。このため「生活構造」における衣生活の位置づけと必要性を認識しなければならない。産業構造、社会構造の特徴をとらえ、多面的社会環境に適切に対応した視点で、教育内容の構成、教育方法（教授＝学習方法）などを考慮する必要がある。あわせて、「自己教育力の育成に重点をおいた「実践的能力・態度の育成」の強化方策の検討が必要である。

高度情報化社会が進む中では、ファッションは多面的複合要因を含んでおり、同時に具体的な生活事象の全体像を反映したものである。生活の総合性を構造化したライフスタイルは生活構造、生活意識、生活行動の三次元で構成される。このシステムによって、ファッションの位置づけとその有機的統合機能を明確にした。このようにシステム化されたファッションを教育内容構成要素や機能と対比させることによって、教授＝学習過程における分析的・系統的学習展開を可能にし、実践的学習理論の構築が可能となろう。

ファッションの情報価値特性の分析を総合的次元で具現化し、衣生活教育の中核的概念として捉えてみた。この際概念形成には認識過程、コミュニケーション過程の二種類がある。マッケーは認識の対象に構造、パターンがある場合には、能動的反応行為としての認識に従う機構の方がより能率的に認識し、適応できるとしている。このマッケー論によりライフスタイルの構造における情報価値特性を認知構造化することが可能となる。

1) 盛玲子：第31回東北・北海道地区日本家政学会研究発表要旨集、P31（1986）